

いわみざわ



発行所 陸軍駐屯地司令部
陸見沢市月形町1-3
電話 350-2721
編集 陸軍駐屯地司令部
〒261-0126

平成二年度スタート

国際情勢、国内情勢とも大変予測の難しい状況となり、一夜明ければ世界から危険視されているのは日本とドイツ、まるで第二次世界大戦前夜の様相です。



陸見沢駐屯地司令部一等陸佐 寺村 誠士

平成でいられるのも今の内だけかも知れませんが、ともあれ岩見沢は雪のない暖かい日差しの下、新しいスタッフと新進気鋭の新隊員三十五名を加えて新年度を迎えました。このように情勢の激変する状況下では、その変化に惑わされることなく、しっかりと地に足をつけ、着実に実力を養成することが肝要です。

屯地が隊員のやすらぎの場となるよう生活環境の整備を行うとともに、駐屯地内の各部隊及び隊員が御家族を含めお互いに親和団結するよう各種の行事を実施します。

「健全な駐屯地」は、駐屯地の警備態勢を充実するとともに最小限必要な規律はしっかりと統制します。

特に、今年度は陸上自衛隊で五年に一回しか行われない訓練に駐屯地をあげて参加をするため、いざ有事と言う時の警備をどうするか細部にわたって詰めたうえで実働訓練により万全な態勢を築きます。また、駐屯地の開放に伴い、地域の人々の出入りが倍以上になりますので四月及び十月に駐屯地統一の警備訓練を行うほか、警備所の改修等を行い、警備が容易な態勢を築きます。

生活環境の整備では、昨年度の体育館の造成に引続き、本年度は食堂厨房の新設、新隊舎前の再開発による営庭とテニスコートの整備、現在の食庫を倉庫及び私物庫等に改修、現金自動払出機(C/D)の新設、営内者等の私有車駐車場の整備のほか、十年後二十年後に駐屯地が岩見沢地域の一公園となるよう桜の植樹(五百本)、二ふし公園の整備等を行います。

企画段階から参加し、更に盛大な行事となるよう支援します。また、三笠市、月形町、栗沢町、北村に於ける行事等にも積極的に参加し、各々地域が活性化するように我々の知恵と汗を注ぎましょう。

この地域は我々の地域であり、第一が第二の故郷であります。自分の地域を、故郷を活性化することは、自らの使命であると考え、自らの力として取り組んで下さい。

現実の戦争に直面してない我々は訓練こそ平時の戦争であることを忘れず一人一人がその任務を完遂することを強く要望して筆を置きます。

感謝します。今年度は体育館の新設に伴い、クラブ活動を更に充実発展させるとともに、各種行事には企画立案段階から駐屯地各部隊に参加していただき、更に愉快な楽しい行事を行いますので御家族共々多数参加して下さい。

「地域に貢献する駐屯地」は、先ず駐屯地周辺町内会と仲良くして、この活動を活性化する必要があります。

巡視では、駐屯地の各施設において二十二年前にタイムスリップされ、現在の施設との比較、思い出話もされた。

二十二年振りの里帰り

第三施設団長 加藤 哲朗 一佐

うららかな日差しが心うれる三月二十九日、第十二施設群(群長 寺村一佐)は、第三施設団長 加藤一佐の初年度視察を受察した。

加藤団長は、昭和三十六年から昭和四十三年までの七年間、第十二施設群の前身である陶芸(歴代宮元近藤尚氏・坂田和幸氏)作品に目をとめられ懐かしそうに両氏の近況を聞かれる等、駐屯地のすべてが懐かしい御様子であった。

群長室に案内された団長は、早速、群長より第十二施設群及び駐屯地平成二



度、同夜市内で行われた有志による懇親会には、隊区内各市町村長、隊区連合会長、協力会長をはじめ、団長在隊当時の分隊長や章顔の新所屬隊員等が白髪姿で出席した他、駐屯地隊員多数が参加して懐かしい思い出話に楽しい一夜を過ごされた。



体育館完成

| | | | |
|-----------|-----------|---------------------|-------|
| 駐屯地盆踊り大会 | 8月中旬 | 駐屯地司令杯混合ダブルステニス大会 | 7月22日 |
| スナック写真展 | 9月14日~16日 | 夏休み子供キャンプ | 7月下旬 |
| 駐屯地創立記念行事 | 9月23日 | ラジコン飛行機の日 | 8月下旬 |
| 駐屯地年忘れ大会 | 12月27日 | 駐屯地司令杯少年剣道大会 | 11月 |
| 新年交礼会 | 1月5日 | ★その他にも行事を計画しております。 | |
| 駐屯地意見発表会 | 2月中旬 | この行事には、再度御案内します。 | |
| 駐屯地冬季運動会 | 2月下旬 | 行事近くには、再度御案内しております。 | |

除雪工事

第十二施設群は、岩見沢市、二十三日(砂浜地区公民館)北村から要請を受けていた岩見沢市道及び北村道除雪工事を完了した。岩見沢市三月十六日(市民会館)、北村三月廿一日(市民会館)にて、市民会館に岩見沢市では、市民会館に岩見沢市長を初め市の関係者と

道除雪工事引渡し



雪だるま祭りに参加

駐屯地では、岩見沢市民が自主参加して冬を楽しむ「第七回市民雪だるま祭り」に今年も参加した。

市民雪だるま祭りは、豪雪地帯の岩見沢市を雪だるままで埋め尽くそうというもので、駐屯地は第一回から参加しており、今年も、駐屯地営門に



高さ四m、縦横約五mの「うさぎ」と序舎前にいすれも高さ五m、縦横約七mの「アンパンマン」、「ジョッキパンマン」及び「バイキンマン」の四基の雪像を作り、子供の人気者となった。

今年、市内で作られた雪だるまは約百基、年々数量、質及び大きさを盛り上がり、みせ、道行く市民をたのしませていた。

また、駐屯地では来年も人気ものを作成し、市民とともに冬を楽しむ予定である。

駐屯地市内会場で実施 意見発表会

駐屯地では、三月七日、岩見沢市文化センターにおいて平成元年度駐屯地意見発表会を行った。

意見発表会は、各部隊からの代表者十三名と一般からの代表者十三名と二般から(岩見沢青年会議所、商工会

自衛隊関係者約三十名が出席し、自衛隊の工事報告のあと寺村群長が工事完了通知書を市長に渡し、国兼市長からは地域住民の感謝と隊員の労を労う内容の感謝状と記念品を贈られた。

その後、懇親会に移り除雪に対する苦勞話、特に十二月下旬から一月上旬にかけての集中降雪(十二日間連続出動)時の話等時間が足りなかった様子であったが有意義な懇談を終わり引渡しを終了した。

また、北村では、酒井助役を初め村の関係者と自衛隊関係者約三十名が出席し、岩見沢市と同じ要領で引渡しを行い、幾多の成果を取って無事終了した。

工事の成果

- 岩見沢市
 - 第三二施設器材中隊
 - 迫田三尉以下八名
 - 市道堀ヶ丘線他二線
 - 除雪実施日数 四十七日
 - 排雪日数 四日
 - 北村
 - 第三三七施設中隊
 - 阿部曹長以下十二名
 - 砂浜沿岸線他四線
 - 除雪日数 八十二日

屯地意見発表会



意見の発表は、一人五分以内で、人生観、主義主張、生活体験、将来の抱負等ユーモアを混ぜながら個人の特徴を活かして熱弁をふるい、隊員、隊員家族及び一般市民約四百五十人の聴衆から盛んな拍手を受けた。

厳正な審査の結果、二十四歳で除隊、二十四歳で再入隊しその過程を「七転び八起き」と題し発表した第三三六施設中隊多田一士が最優秀賞に選ばれた。

会場は、岩見沢二世会(三名)の特別参加を得て盛大に行われた。

会場の選定にあたっては、隊員の生の声を一般市民にも聴いてもらおうと、昨年に引

は、第三三七施設中隊、大西三曹と第三一四基地通信中隊岩見沢派遣隊横井一士がそれぞれ選ばれた。

また、努力賞に駐屯地業務隊、中村三曹、第三三六施設

家族を交え運動会

駐屯地では、二月十二日、隊員家族及び部隊周辺の一般市民百八十名を招き、駐屯地営庭及びスキー山を舞台にして冬季運動会を実施した。

中隊、松田三曹が選ばれた。なお、多田一士、大西三曹の両名は、三月二十六日、恵庭市市民会館大ホールで各部隊から選抜された十二名の代表により行われた第十一回第三施設団意見発表会に群の代表として参加し、多田一士が「七転び八起き」を発表して、優秀賞に選ばれ、意見発表会での群の伝統を継承した。

を採す「宝探し」等の他、カシノスキーを滑り降りる、ツボ足で走る等を盛り込んだ「部隊対抗の階級別リレー」。「アキオ曳行競技」も含め、積雪地ならではのアイデア競技に参加者は大喜び、会場は盛大な声援と爆笑の渦



また、会場には、アンパンマン、バイキンマン等の大雪像四基の他、すべり台、大かまくらも作成、甘酒お茶、ジュース等のサービスに家族や市民は大喜び、隊員と家族、市民とがふれあう好行事となり終日楽しんだ。

市民冬の祭典に参加

駐屯地では、二月十日・十一日の二日間、いわみざわ公園において行われた「第六回スノーフェスティバル」を支援するとともに同行事に参加した。

今年も、第十二施設群から第三三六施設中隊を主力に、

延べ人員百六十八人、ドレーザ、油圧ショベル、ローダ等の機械力により雪量約七百メートルを使用して高さ五、五m縦横十五mのメインステージ(アンパンマン城)の作成等の支援をした。

また、二月十一日、アンパンマン大会で



決勝戦は、階段登り、ツルツル斜面等の登坂競技で頂上を目指した結果、駐屯地の隊員が上位を独占する結果となり隊員の力強さを市民にアピールするとともに交流を深め、市民と終日楽しんだ。

城取り合戦」に駐屯地から隊員二十三名が参加し、市民と共に冬の祭典を楽しんだ。

ガマン大会では、水を両手でかかえ雪の入った水風呂に肩まで浸かっているのが又練り返すというハードな競技で、出場した隊員二名と市民二名が最後まで頑張り延長戦でも決着がつかず、ついにドクターストップで四名が優勝を分け合い、岩見沢ギネスブックに優勝タイムが記録された。

城取り合戦では、隊員二十一名と市民八十名の計百一十名により、壁のほり、谷間ジャンプ、人間カーリング、落とし穴等の予選を行い、五名の選手が決勝戦進出。

体育館完成

駐屯地では、昭和二十八年創設以来三十七年間待っていた体育館が完成し、四月十日内外関係者約百二十名の来賓を迎え、落成を祝った。

落成式の式辞で寺村司令は「この体育館を地域の人々と共に分かち合って使用して行きたい。駐屯地はクラブ活動を活発に実施しているのだから、一緒に参加して頂き、地域の発展のため少しでも役に立ちたい。」と述べ、関係者ともども喜びがあった。

これまでに、道内有数の豪雪地帯にもかかわらず駐屯地には、体育館がなく、冬期間の銃剣道練習や屋内スポーツは、市内の体育館を利用するか小さな倉庫の片隅で練習をしてきた状況であり、「天国のような施設に隊員一同喜んでいける。」

また、落成を祝って岸良曹長以下二十四名による徒手格闘及び銃剣道の模範演技並びに川崎曹長による戸山流居合道の演武を披露する等多彩な催しに、会場から盛大な拍手喝采をあげた。

岩見沢駐屯地では、隊内の各施設を市民に開放し、市民

の憩いの場所となるよう「開放する方針で、空いている時には大いに利用していただき、体育館も同様に市民に開放する方針で、空いている時には大いに利用していただくよう広く呼びかけている。」



車両操縦技能競技会 三三六施中優勝

第十二施設群では、四月六日から十日までの五日間「春の全国交通安全運動」及び同日六日から十五日までの十日間、岩見沢駐屯地「春季車両事故防止強化期間」の設定に先駆け、五日・六日の両日、車両操縦技能競技会を実施した。

本競技会は、練度向上と部隊の士気、交通安全意識を高揚し交通安全に寄与する目的で、今年初めて計画した。

競技会は、装輪車操縦特技を付与されている者計百二十五名が、学科試験及び特設コースにより技術を競った。

競技開始に当り、寺村群長は「一般社会においては、飲酒運転及び交通事故が後を断たない。我々の仲間からこのような重大事故を起こす事のないよう各人が自覚して、この機会に一層の技能向上に努め、交通安全に万全を期していただきたい。」と訓示した。

競技は、前段学科試験で、



交通法規及び自衛隊関係諸規則の問題に取り組み、満点を頭を悩ました。後段は実科試験で、大型車両を使用し、特設コースの鋭角クランク、車庫入れ、方向変換クランク、鋭角を通るもので、操縦の時間・正確さを競った。

各中隊の代表選手は、難コースに悪戦苦闘しながらも、中隊の名譽をかけて奮戦した。

競技の結果、各中隊とも差がなく僅差で**第三三六施設中隊**が優勝の栄冠を獲得した。成績は次のとおり

優勝 第三四二施設中隊
 準優勝 第三三二施設中隊
 第三位 第三三二施設中隊

個人部
 第一位 久保三曹(三四二)
 第二位 中島士長(三三七)
 第三位 松田三曹(三三六)

第十二施設群銃剣道競技会 三二二器中優勝

四月十一日、第十二施設群銃剣道競技会が前日十日落成式を終わったばかりの真新しい体育館で実施された。

競技会は、名寄市に駐屯する隷下部隊、第三四二施設中隊を含む六個チーム(施設中隊一個チーム、幹部、准尉一名以上、陸曹十三名以下、陸士七名以上、合計二十一名)〔本部管理中隊、第三二二施設器材中隊チーム幹部、准尉一名以上、陸曹十五名以下、陸士五名以上、合計二十一名〕の総計百二十六名が参加して行われ、第三二二施設器材中隊(中隊長 柚木一尉)が優勝の栄冠を獲得した。

銃剣道は自衛隊の表芸(近接戦闘用武術)であるばかりでなく、昔から伝統のある武術で現在は精神修養を初め、体力・氣力の向上、人間本来の闘争心の涵養に役立つなど、特に、第三二二施設器材中

自衛隊員にとってはもっとも重要なスポーツの一つである。また、国民体育大会でも正式種目になっており、第三十回北海道銃剣道選手権大会に今年も五名が出場。十五日には、当体育館で南空知銃剣道大会も開催された。

更に、今月二十六日、第三施設団(恵庭市)で行われる銃剣道競技会が予定されており、各隊員は中隊の優勝と団銃剣道大会の群の代表選手にと闘志がみなぎっていた。

競技に先立ち群長は「各中隊の名譽をかけて、応援者と一緒にになり優勝を目指し頑張ってください。」と訓示。

競技は、各中隊とも群長の意図にそらへく奮戦し、白熱した試合展開となり、選手はもろろん応援者も一本一本に一喜一憂した。

特に、第三二二施設器材中



隊は、中隊長を核心として日頃の練習成果を遺憾なく発揮した結果、一試合平均勝ち本数十三本以上を獲得して、団体戦五勝〇敗の完全優勝を成し遂げた。

成績は次のとおり

団体戦
 優勝 第三三六施設中隊
 準優勝 第三三五施設中隊
 第三位 第三三五施設中隊

個人戦
 第一位 高木二尉(三四二)
 第二位 土谷三尉(三三五)
 陸曹の部
 第一位 宮崎二曹(三三三)
 第二位 安田三曹(三二二)
 陸士の部
 第一位 木村士長(三四二)
 第二位 四関士長(三三五)
 第三位 長田士長(三二二)
 同 佐藤一士(三三六)

O B だより



氏進 崎 長

昭和五十四年九月岩見沢商工会議所に入所して、十年六月が経過し、二回目の定年を迎えることになった。

十年一言と言うが、今振り返ってみるとあつと言つ間に過ぎた感とある。

私の仕事は、商工会議所本来の仕事とは程遠い北方領土返還要求事業の運営推進である。

「北方領土の日」が設定され

り、この仕事を始めたころは、空知支庁管内の住民は、われ関せずと言った感じに北方領土については、他人ごとのようであった。

早速、二十七市町村に呼びかけて、リーダーの人々を根室のノサップ岬に連れて行き、研修会を開き、理解を深め意識高揚を図ることとした。

先立つものは金であり各市町村に援助を仰ぐようにして、その後隔年実行し、在任間五回約二百人余の人を参加させた。ようやくこの事業も定着し、又、昭和五十六年一月に

て以来、マスコミなども頻繁に取り上げるようになり全国的にも北方領土返還要求の機運は高まってきていることは何よりである。

ところで、私も還暦を迎えてふと我に返つてみると、宮崎県の片田舎で生まれ育ち、二十歳から警察予備隊に入隊以来、九州、中部地方を転々とし、昭和三十一年に渡道して、岩見沢に落ち着き故郷的存在となってきた。

人生八十年時代、まだまだ若い、と思つている。これから毎日ジョギングで汗を流し足腰を鍛えて健康第一に、明るく、楽しく過ごしたいと思つているところである。

ひるるば

冬季野営に参加して
第三三六施設中隊
陸士長 五十嵐英樹



私が、自衛隊に入隊したのは二年前、今年の二月、初めて冬季野営訓練に参加しました。

野営訓練の内容は、二夜三日のスキー行軍で、行軍に必要な個人の荷物を全部背中に背負って、道のない勾配の急な坂を上り下りしながら約十二キロメートル踏破するものでした。

行軍初日は、二月の雨に悩まされたながらも宿営地に到着息つく暇もなく協同作業でイグルー作り、一時間かかりやつと完成、下着等を取り替えストーブのない場所を震えながらの食事をすませ、携帯燃料でコーヒールを沸かしほつとしたのもつかの間、イグルーの天井は雨漏りし、今にも崩れ落ちそうになり、寒さも加わって、とても眠れたものではありませんでした。

2日目、風雨と戦いながら山中を行軍し駐屯地演習場に到着、イグルーが完成するころには雨もやんで今夜は安心して寝れるかも？

そんな安易さも長くは続かず、寒さで眠れたのは僅か三時間。

スキー行軍は、当初 私が考えていた以上に辛く厳しいものでした。

今思えば短かった二夜三日間ですが、一般の人々には味わえない自然との闘い。そして皆と協同してやりとげた満足感等、私にとって今回の野営は今後の訓練・服務に大きな自信となつて現れるものと確信しています。



スキー合宿に参加して
本部管理中隊
士長 奥田 浩一



自衛隊に入って初めてスキーの訓練隊に入れられ、初めは何もわからず戸惑いの日々でした。

十一月から名寄での合宿が始まり、その時は、陸士ばかりの合宿であり気楽に走っていました。名寄での合宿が終り群の大会が近づいてくると、そんな気分ではいられなくなつてきました。

岩見沢での練習は、毎日速い陸曹の人に追われながら六キロコースを二周したり、六キロ走つた後ダッシュを二十本近くやつたりして走り終つてきた時には、立っているのがやっとというほどでした。風邪気味の時には、吐いた

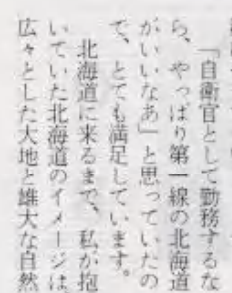
だから、そんな毎日が辛くやめてやるとか、サボつてやるとしか頭にはありませんでした。でも、いつの間にか練習にも体が慣れそんな事をあまり考えなくなり、かえって走り終つた後の充実感・満足感が残るようになりました。

そして、自分の時間を持つようになる。厳しい一日の練習が終わって夜飲むビールもおいしく、練習はきついがそれ以上に良い事が沢山ありました。

自分では、思ってもいなかった群の選手に選ばれ大会に参加することが出来た事で、途中でぬけずに最後までやりとらした自分の「努力」と「頑張りを」忘れずに、これからも一生懸命努力したいと思います。



今年思うこと
三三三施設中隊
三曹 柴田 周二



今年思うこと
三三三施設中隊
三曹 柴田 周二

終わってしまったらどうにも言えませんが、もし、戦争が起こつて、あのままの状況が数カ月から数年と続くとしたら、止めようもない戦慄に襲われそうです。



北海道にやってきました
第三三七施設中隊
三尉 三家本勝志

以前十三群の人が、大会を終えての感想に、けが人を出したら勝てない、広報紙に寄せていました。

私は、十三群の喜んでいた顔を頭に焼き付け、「今にみていゝ」を合言葉に夏・冬を制した十三群をやつていたいと思います。

昨年怪我らしいものは、何もありませんでした。お互い気をつけて、今年度頑張ります。

何かも新しく、各人様々な志を立て、新年度を迎えられたことと思います。

宝 石 創業82年 貴金属
防衛庁共済組合岩見沢支部契約店

株太田時計眼鏡店

岩見沢市1条西4丁目
☎0126-223353・223354

株式会社 **本堂建設工業**

取締役社長 **本堂 春夫**

本社 三笠市鏡春別町4丁目
電話 (01267) 66-8288 FAX (01267) 6-8030
札幌支店 札幌市白石区本通1丁目南1
電話 (011) 861-1381 FAX (011) 865-5034
石狩支店 石狩町花川南1条1丁目11
電話 (0133) 73-3111 FAX (0133) 73-0757

自衛隊退職者雇用協議会
岩見沢支部

事務局：岩見沢市商工会議所内
支部長：三谷 栄一
TEL：0126-22-3445

ファミリーコーナー

冬季訓練を見学して

第三二二施設器材中隊

伊藤二曹夫人

伊藤 千恵子

二月二十二日、寒風の中で



したけれども、晴天に恵まれ、岩見沢駐屯地孫別演習場で行われた冬季訓練を見学するこゝが出来ました。主人は、昨年三月までの一

双眼鏡で見学中

年間、名寄駐屯地に単身赴任して見せてくれたり、中隊指揮所では隊員の皆さんが実際に無線や電話で話をしてる姿も見ることが出来ました。また、攻めてくる側の隊員さんは、二日間、山の中を歩き、山で宿泊しての訓練で、私達の目前では、破壊筒を持ち機関銃の音がするたびに雪に伏せ、音かやむと走る動作を繰り返しながら前に進んでいて、寒いのには本当に大変だと思えました。

等は、私達見学者の為に動かして見せてくれたり、中隊指揮所では隊員の皆さんが実際に無線や電話で話をしてる姿も見ることが出来ました。また、攻めてくる側の隊員さんは、二日間、山の中を歩き、山で宿泊しての訓練で、私達の目前では、破壊筒を持ち機関銃の音がするたびに雪に伏せ、音かやむと走る動作を繰り返しながら前に進んでいて、寒いのには本当に大変だと思えました。

ければならないと、強く心に感じました。

健康

第三二七会計隊

中村曹長夫人

中村 恵美子



私は、いつも健康のありがたさを感じています。一歳一ヶ月の時、長男を病気でなくし、次男も三歳の時川崎病にかかり四ヶ月の入院生活を送りました。

その時は、原因も治療法もまだあまりわからない頃でした。一週間の血液検査に、一喜一憂したものです。ですが



ら退院まじかの頃は、私の方が体調をくずしてしまいました。その後、別の病気で二度入院生活を送った息子ですが、現在は、すっかり健康になりました。

近所にパーキンソン病の方がいますが、朝晩は、体が硬くて動きが鈍いそうです。天気の良い日は、車の付いたイスを押して歩行練習をしています。一生懸命頑張っていらっしゃる姿を見ると頭の下がる思いです。

健康の有難さは病気になるのはじめてわかるかも知れません。家族のみんなが健康でいられることに感謝し、相手を思いやる心を忘れないように何事にも精一杯努力していきたいものだと思います。



隊員紹介

中隊のホープ



第三四二施設中隊二等陸曹 川堀 清隆(三十二歳)を紹介いたします。

昭和五十一年三月入隊、平成二年二月結婚、新婚ホヤホヤ。銃剣道四段、スキーは、連盟の一級。持統走は、各地区のマラソンには欠かざす出場するファイトマンである。毎年中隊・群戦技で大活躍する当中隊のホープである。

中隊のエース

第十二施設群第三三六施設中隊の藤村三曹(昭和三十



年七月四日生まれ二十七歳)を紹介いたします。

見るからにいかつい顔と隊員に傷が残らない程度の愛のムチで服務指導を実践し隊員に絶大な信頼を受けている通称「ヤクザ三曹」と呼ばれる群の名物男です。

出身は、青森県三戸郡五戸町の出身で、青雲の志を抱き昭和五十六年三月入隊、後期終了後我が第三三六施設中隊に

吟声

第三三七施設中隊

二曹 藤井 幸雄



平成二年度も元年度同様に大変忙しい年となりますが心を失わないように自分自身で努力をしなければなりません。私たちのまわりには、色々な趣味を行って明日の鋭気を養っている人が多く居ると思

私はその中で詩吟について紹介したいと思います。

詩吟の始まりは、漢詩等を学習するため余韻を引いて節をつけたことにより旋律が生まれました。よって詩吟は、詩文のこころを正しく伝える上からも正しい発音が非常に大切なもの

- 年金と医療保険のバイオニア
- 生涯の保障に終身保険(明朗)

日々の暮しに安心を

東邦生命

担当 深沢 隆子 (内327)

- 安心しっかり
- 愛車もしっかり

車検費用積立プラン

富士火災

担当 松 浦 直 樹

岩見沢支社 22-5142

安心とゆとりのプラン

協栄生命 LLワイド

担当:清橋ひさ子・田村純子

更新型

余剰資金を上手に活かして大型保障

協栄の保険料頭金制度をご利用ください。

定期特約付終身保険

協栄生命保険株式会社

栄光をたたえて

- 団長
三級賞詞
三佐 山田 完治 職3 14
三尉 田中 明光 職3 14
准尉 千葉 剛基 職3 14
一曹 渡邊 政治 職3 14
三曹 飯野 和男 車1 11
士長 齊藤 信二 車1 11

新鋭中隊長 紹介



第三三六施設中隊長 一曹降尉 久保田直昌

- 群長
四級賞詞
三佐 五嶋 順一 職3 15
准尉 芳野 栄 職3 15
二曹 山田 利文 職3 15
二曹 小笠原 五郎 職3 15
二曹 藤井 幸雄 職3 15
二曹 川堀 清隆 職3 15
三曹 小林 一幸 職3 15
三曹 伊藤 重雄 職3 15

おめでた 新婚さん

- 小林 伸広 妻ふじり 3 4
山口 和人 妻寿栄 3 1
坂東 善光 妻美雪 1 1
井上 健一 妻浩子 4 10
- こんにちは 赤ちゃん
池田 広明 長女 有希 4 3
内海 清隆 長女 利沙 3 21
安田 雄一 次女 春佳 3 27
三浦 勝行 長女 千裕 3 20

人事 住来

来る人

- 第十二施設群
群本部へ
三尉 黒滝 信恭
*第三五施設中隊長へ
三尉 関本 修
*本部管理中隊へ
准尉 佐々木 努
曹長 霧下 隆徳
一曹 市川 孝徳
一曹 田川 誠
一曹 土屋 英雄
一曹 中田 賢二
二曹 佐々木 博文
*第三三七施設中隊長へ
三尉 三家本 勝志
*第三二二施設器材中隊長へ
曹長 高橋 三雄
曹長 黒瀬 公男
一曹 高木 邦夫
二曹 石岡 芳彦
三曹 安田 陽二
業務隊へ
二尉 高見 友康
行一 伊賀 孝司(管理科長)
行一 橋本 克三(営繕班長)
行一 相場 博美(共済班長)
行一 4 深堀 清支(共済係長)
警務隊 岩見沢連絡班へ
二曹 小林 孝造(滝川)

長い間 ご苦労さまでした 定年退官

- 群本部
三佐 五嶋 順一(出雲)
一尉 田中 幸彦(南恵庭)
三尉 葛西 正浩(業務隊)
本部管理中隊
准尉 柴田 武輔(南恵庭)
一曹 菊池 哲弥(南恵庭)
一曹 小笠原昌雄(名寄)
二曹 市川 泰博(名寄)
三曹 豊田 富之海(田市)
*第三三六施設中隊長
二曹 上原 猛(小郡)
*第三二七施設中隊長
一曹 渡辺 政治(札地連)
*第三二二施設器材中隊長
一曹 佐藤 勝義(南恵庭)
一曹 平賀 信秀(南恵庭)
一曹 山内 巧(南恵庭)
- 二曹 山田 利文(名寄)
二曹 小笠原五郎(名寄)
業務隊
二尉 和田 良作(真駒内)
行一 6 清水義和(島松)
行一 5 柴田 實礼(病)
行一 4 三沢 弘規(別)
会計隊
一尉 坂本 幸盛(美唄)
合格おめでとう
第十五期一般陸曹候補生
本部管理中隊
一士 笹木 道明
*第三五施設中隊長
一士 越智 康文
*第三三六施設中隊長
一士 松尾 要
*第三二四基地通信中隊長
一士 成沢 聡
- 北海道リンクスゴルフ場
*第三三七施設中隊長
曹長 井出 正巳 2 15
就職先(株)岩見沢通運
曹長 得地 富明 2 24
就職先 振興公社
業務隊
二尉 井崎 宏泰 3 10
就職先 日本電装
三佐 細川 金治 3 14
就職先 東京海上火災
三尉 佐藤 春男 3 31
就職先 岩見沢商工会議所
三尉 佐藤 陽治 4 2
就職先 岩見沢商工会議所
行一 5 山本 秀雄 3 31

各種競技会参加者

- 古橋 治夫
札幌国際スキーマラソン
福村 長作
道民スポーツ 距離
神田 務
札幌国際スキーマラソン
湧別百キロ
佐藤 清秋
札幌国際スキーマラソン
湧別百キロ
赤井 満
岩見沢スキー大会 距離
北山 幸一
札幌国際スキーマラソン
新原 登義
札幌国際スキーマラソン
深草 健浩
札幌国際スキーマラソン
内藤 利夫
札幌スキーマラソン
湧別百キロ
柚木 義人
岩見沢スキー大会大回転
新原 義夫
下川クロスカントリ
加茂 弘一
湧別百キロ
大沼 稜
湧別百キロ
阿部 正義
全道自衛隊防具付空手道選手権 個人の部 三位

おめでとう スキー二級に合格



川柳もどき
七中 本田三曹
行く末が つぶさに分る
二人三脚
寒空に春を思わす
笑い声
六中 藤木一曹
アンパンマンとバイキンマン
仲良く迎える冬季運動会
みんなで食べた部隊食
次はいつかと問う妻子
六中 上原二曹
来年もまた来たいという
子らに
転属の内示にかに話さん

業務隊 生井沢 威二曹は、平成二年一月岩見沢市で実施された全日本スキー連盟主催のスキー検定を受験、日夜努力した結果、米道一年目で見事二級に合格した。

時代を一步リードした 中庭のあるモデル住宅
柏崎建築設計事務所
建築請負 柏崎建設株式会社
代表取締役 柏崎昭明
会社 岩見沢市11条西1丁目 29番町 番
電話代 23 21 7 5
見沢市 東山 2 5
岩見沢 電話 24 1 7 2

北海道電力株指定・ナショナル電気チェーン店
東芝電材チェーン店・電気工事設計施工
火災報知設備・照明器具・家庭電化製品
有限会社 千葉電気商会
068 岩見沢市東山町2番地7-1
電話 (0126) 24-4567番

◀より安く荘厳に御奉仕します▶
霊柩車・バス送迎サービス
(+遺体搬送車あります。)
(株)岩見沢葬儀社
ほんだ花や
互助会々員の方も御利用できます。
▶納棺無料サービス▶年中無休▶24時間営業
岩見沢市4条西10丁目 ☎23-1125

近江建設株式会社
特定土木建設許可・一級建築士事務所
本社 岩見沢市4条東17丁目48番地 電話23-3026
支社 三笠市唐松町1丁目374 電話 2-3179
営業所 札幌市中央区南2条西5丁目
ロジエ札幌25 806号室 電話011-222-5359
営業所 三笠市幌内本沢町 電話2-5403

サンブラザウ・ディングス
華燭
半分の価格で豪華なまでのパーティをセレクトしてこの価格で
ご両家ご負担 200,000円
*全費お1人様5,000円×人数-200,000円(両家ご負担)
豊かな味と憩いの広場
ホテル サンブラザウ
岩見沢市4条東1丁目 ☎23-7788

中国風パブスナック
里
岩見沢市3条西1丁目 ☎23-2533
25-0631

あなたの祝典のステージ
岩見沢 平安閣
岩見沢市5条東2丁目
☎(0126) 23-4581